

学校関係者評価委員会 21年度 評価結果報告

2022年7月2日

日産京都自動車大学校 学校関係者評価委員会

- 開催日時
2022年6月21日(火)13:00~14:40
- 開催場所
日産京都自動車大学校 2階多目的ルーム
- 出席者

- (評価委員) 1. 団体代表 桐本利博(京都府自動車整備振興会事務局長)・徳田悦生(京都府自動車整備振興会 専務理事)の代理 / 田中 存(京都府自動車車体整備協同組合 事務局長)
2. 高校代表 竹本尚人(京都府立田辺高校 自動車科学科長) 中森耕平先生の代理出席
3. 卒業生代表 西村 剛(第1回卒業生 正和自動車販売株式会社 会長) / 中津秀樹(日産サービスセンター株式会社/阪神支社 課長)
4. 企業代表 川畑利彦(近畿日産株式会社 部長) / 三浦直也(京都日産自動車株式会社 執行役員) / 藤本正昭(日産大阪販売株式会社 BP事業部長)

(学校事務局) 川嶋則生(校長)、島井英雄(教頭)、吉澤英行(学務部 課長)、橋本健(学務部 課長)、武内健二(教育部 課長)、大村哲嗣(教育部 課長)

上記以外の参加者 山瀬匡隆(車体課統括)、清水昭一(自動車課 課長代理)、遠藤博之(一般課 課長代理)、当麻範嗣(教務課 課長代理)

4. 議題

- 校長挨拶
- メンバー紹介(評価委員、学校事務局)
- 2021年度の活動振り返り
- ICTの授業について
- 意見交換

5. 議案

- 概況: 今回は、FY21の様々な取組結果についてご理解を頂き、また、各委員から貴重な意見・示唆を頂くことができた。これを基に、課題に取り組んでいく。
- 項目別評価と主な意見、及び それに対する学校の受止め ※意見の番号と、受止めの番号は、リンクしている。

承認	基準	項目	主な意見
承認	1. 教育理念・目標	主な課題	・一般工学科の学生育成及び車体科教員の先進技術の技能取得を図る必要がある。 ・募集が低迷する中、一般工学科の付加価値の向上、及び留学生の募集を強化する必要がある。
		主な意見	特になし
		意見の受止め	—
承認	2. 学校運営	主な課題	・「決定基準」の運用について経費処理を軸に内部監査を実施、その結果を受けて、運用を整備していく。
		主な意見	特になし
		意見の受止め	—
承認	3. 教育活動	主な課題	・国家資格指導をするに当たり、学習障害と考えられる学生が増加しており、通常の指導では対応できない昨今の状況である。個々の学生の合った指導方法を検討し、取り組む必要がある。 ・カスタマイズ科の車両製作は、人材育成に大きく寄与しており、また、クオリティが年々向上して来ており、教員の車両製作スキルの向上も課題の一つである。 ・学生の自主性を向上させる為、「学びの改革」と称し、ルーブリック評価を利用した、新たな学生育成評価基準の構築に取り組んだ。 ・一般工学科は、特定整備に対応できる人材を育成する為、日産インテリジェント・モビリティ講座(以降、NIM)を実施している。特別講師として、日産自動車から2つの部署(研究開発、整備技術)から講師を招いている。 ・多様化する学生に対応する為、学校カウンセラーと連携を強化し、また、対応力向上研修を全員の教員が受講した為、個々の学生に応じた育成、指導に取り組むことができた。 今後、この方針を一層強化し、個々の学生にあった指導に取り組んで行く。 ・国際自動車整備科(留学生課程)3年課程を開設した。34名の入学生に対し1名だけの除籍で他は、全員進級した。しかし、N2の合格率向上、日本語力向上の課題が明確になり、22年度に対策を講じていく。 開校後、学費の支払い、日本語力が低いなどの課題が顕化した。 ・世の中の学習環境に対応すべく、21年度は、ICT授業を導入し、また、22年度に学生にPC1台/人を配布する準備を進めた。
		主な意見	・現場も高齢化が進んでおり、現場からフロントへの配置転換が現状である。(藤本委員) ・車体整備業務を知る為、学生のインターンシップを受け入れます。(藤本委員) ・カスタマイズ科の製作車両の高いクオリティに感心した。(中津委員) ・カスタマイズ科の学生が、生き生きしている。(藤本委員) ・光岡自動車と重なって感じる。古い車に感心が向いているのか?(田中委員) ・NIMの機能は、体験しているか?(川畑委員) ・授業で詳細な内容までは、教えずに大丈夫。整備要領書を眺めるようにすることが重要である。(川畑委員) ・NIMを教育することによって、採用企業側には刺さり難く感じる。(西村委員) ・適応障害の社員があり、現場及び人事の対応としては、運院を勧めるしかできない。1、2カ月の療養後、復職させた。(藤本委員) ・国際整備科の学生は、最初から馴染むか?(桐本委員) ・N2は、3年間で取得するのか?現場で適用する日本語か?(川畑委員) ・田辺高校では、ルーブリック評価を導入し、実習レポート+口頭試験を併用して評価している。今後、日産校の取組を参考としたい。(竹本委員) ・授業のICT化で、一人1台のPCは、取り扱いに取り残される学生は居ないのか?(藤本委員) ・現場も電子化が進んでいる為、在学中に取り組んで頂ければ、入社後助かる(中津委員) ・PCを多く使用することになると、字が書けなくなるのでは?(田中委員) ・様々な取組を有難う御座います。退学率低下、学生育成で大変有効である。(田中委員) ・学校としての受け入れ側、先生の苦労が、十分に伝わった(藤本委員) ・ICT授業は、成績の2倍化を防止する為の方策か?(三浦委員) ・田辺高校では、1年からiPadを購入させている(8万円)。(竹本委員)
		意見の受止め	・GT-R好き、車好きの学生を募集対象にしてきたが、18歳人口及び車好きが減少している為、募集ターゲットを広げて行く活動を計画している。(桐本) ・車両製作を通じて、人間性を育成しているが、様々な面で教えるのでなく、考えさせるスタンスでおり、我々の連続である。(山瀬) ・最近の学生は、旧車が好きであり、一昨年はハコスカであり、昨年はフェアレディZだった。今年もZであり、来年はどうなるか?です。(山瀬) ・国際科は、1年次に車の基本を使って日本語力向上に取り組み、2年次に自動車1年生に合流する課程である。馴染むことに関しては、全く問題ない。(川嶋) ・母国は違うが、授業を通じてコミュニケーションが成立しており問題ない。学生達は、日本人以上に生き生きと取り組んでいる。(清水) ・N2と自動車特有の用語とは違う。日本語力を向上させる為の資格と認識しているが、自動車(整備)に関する日本語は、在学中にマスターさせるしかない。(清水) ・PCは、ノートとして使っていくことが理想である。(武内) ・ICT授業の取り組みは成績の2倍化防止の為に、授業の質を向上させる為である。(武内) ・公立小、中学校は、文科省のGIGAスクール構想に則り、一人1台のPCを使って授業をしている。今後受けれるべき日産校は、目指す授業スタイルとして取り組んでいる(川嶋) ・NIMの機能体験は、エマーゼンシーブレーキ、プロパイロットパーキング(PPP)は体験している。1名の教員が、デモンストレーター資格を所有している。(遠藤) ・NIM授業は、日産校のUSPとして方針に掲げており、NBCのテキストを使用し、2年次に構造機構、4年次に制御関係を授業として実施している。(島井)
承認	4. 学修成果	主な課題	・21年度では、ジーゼル4名、ガソリン4名(含むGD両方不合格2名)が不合格になった。留学生の日本語力、学習障害と考えられる学生になる。22年度は、確実な対策を構築し、実行する必要がある。併せて、国家1級整備士は、100%合格となったが、コロナの影響から車体整備士が1名不合格になった。早期に底上げをする必要がある。
		主な意見	特になし
		意見の受止め	—
承認	5. 学生支援	主な課題	・就職を希望する学生は、全員内定した。 ・日産販売会社の整備士増強の為にも、募集方針を強化し、総人数の確保が今後の課題である。
		主な意見	
		意見の受止め	
承認	6. 教育環境	主な課題	・投資効率の高い計画とする為、教科担当教員と相談の上、優先順位をつけて見直ししていく。
		主な意見	特になし
		意見の受止め	—
承認	7. 学生募集・受入	主な課題	18歳人口が減少する昨今、日本人の入学者が顕著し、それを補うべき留学生の入学者数増加に頼っている。しかし、日本学生数を確保する為、近隣エリアの活動の見直し、販売会社との連携強化をする必要がある。
		主な意見	・多岐に渡る取組内容を外部の訴求し、学生募集に繋げる必要がある。(田中委員) ・車体工場の整備士の平均年齢が上昇しており、採用の空洞化が原因である。対策として工場長の評価制度を見直すなどして、定着率を向上する取り組みをしている。(藤本委員) ・他メーカーより募集が厳しい要因は、ブランド力か、募集の取組が違うのか?(三浦委員) ・高齢化も進んでいる。京都校に向けた取り組みに期待する。(三浦委員) ・今後導入される新整備士制度であれば、一般企業は採用に苦労する。(西村委員) ・国家1級のみが検査員になるのであれば、日産学園に社員を入学させ教育する制度も検討する必要がある。(西村委員) ・留学生の募集方法は?(川畑委員)
		意見の受止め	・ホンダ学園は、開発部署に就職する為の課程(授業)があり、募集強化策になっている。(川嶋) ・日産販売会社では、実際に企業留学生制度があり、社員が国家資格取得に向けて入学している。(桐本) ・日産自動車、日産販売会社のご理解をいただき、学生募集にご協力いただきたい。(桐本) ・国家1級の検査員資格については、現在検討されているところと聞いている。(川嶋) ・日本語学校で1年半から2年間の日本語学習をしてから日産校に入学する。(川嶋) ・整備専門学校の一コースを持つ留学生が、実際にどこに地域に居るかわからない。(川嶋) ・留学生の募集を強化する為に、留学生紹介制度を活用している。(川嶋)
承認	8. 財務	主な課題	・学生募集が漸減していることが最大の課題。上述の「学校の将来構想」「教育の質の向上」「学生募集活動」等の成果から、選ばれた学校になれるかが鍵。 ・21年度は予算ベースでの学生確保とならなかったため、今後の中期計画ではコストを抑えた運用と総学生数の維持が必要。早期に募集を伸ばす方策検討が必要であり、事業計画に合った学生数の確保が大きな課題。
		主な意見	特になし
		意見の受止め	—
承認	9. 法令等の遵守	主な課題	・違法改造、道交法に関するもの、未成年の飲酒、喫煙。更には昨今問題となっている違法薬物防止についても周知徹底の為活動を継続していく。また、特殊詐欺でのアルバイト名目「出し子」「受け子」の役割を引き受けてしまわないような注意喚起も行っていく。
		主な意見	特になし
		意見の受止め	—
承認	10. 社会貢献	主な課題	・学園祭等を利用して高校・企業・団体・地元地域との関わりを深くすることで、地域活動への参画を増やし、社会性を校内に取り込み教育の質を向上することに繋げていく計画をしていたが、コロナウイルスの感染リスクを鑑み、学園祭を中止した。22年度は、開催に向けて検討を開始する。
		主な意見	特になし
		意見の受止め	—
		主な課題	21年度には、留学生3年課程(国際自動車整備科)を開設した。コロナ感染防止のため実施できていないため、感染リスクが低下した際には日本人学生との交流する機会を検討する。